



健康支援課
☎973-3209

麻疹・風しんの予防の為 MRワクチンは必ず2回接種しましょう！

麻疹・風しん混合ワクチン(MR)の予防接種はお済みですか。

麻疹・風しん……
どんな病気？

麻疹は、かかると高熱や発疹などの重い症状以外に、肺炎や脳炎などの生命を脅かす合併症を引き起こす可能性があります。

風しんは、妊娠初期の女性がかかると胎児が心臓病や白内障、聴覚障害を持って生まれる可能性がある病気です。また大人になってからかかると重症化しやすいです。

麻疹・風しんどちらの病気も感染力が強く、根本的な治療法はないので、予防が大切です。

予防が大事！

麻疹・風しんは予防接種で予防可能な感染症です。本人がかからない、重症化しないためであることはもちろん、周りに感染を広げないためにも予防接種を受けることが大切です。

昭和40年代に風しんの流行で多くの先天性風疹症候群の子ども達が生まれ大きな社会問題となりました。

平成10年～13年の間に2度の大きな流行があり、県内で9名の乳幼児が亡くなりました。このような悲劇を2度と繰り返さないために、麻疹を蔓延させないことが大切です。

予防接種率95%をめざして

麻疹・風しん混合ワクチン(MR)の接種率が95%以上を保つことで流行を防ぐことが出来ると言われています。

麻疹・風しん対策を強化するため、平成18年4月から2回接種が導入され、麻疹・風しん混合ワクチン(MR)を接種するようになりました。

うるま市の平成22年度麻疹・風しん第1期1歳～2歳未満児の接種率は、92・9%。第2期(小学校就学前1年間の子)の接種率は、96・3%で、第1期については流行防止に効果的とされる95%には達していない状況です。

なぜ2回接種が必要なの？

理由その一

一回の接種で免疫がつかなかった子どもたち(数%存在する)と考えられます。)に免疫を与えます。

理由その二

一回の接種で免疫がついたにも関わらずその後の時間の経過とともにその免疫が減衰した子どもたちに再び刺激を与え、免疫を強固なものにします。

理由その三

一回目に接種する機会を逃した子どもたちにもう一度接種のチャンスを与えます。

早めの接種を！

第1期は1歳～2歳未満が公費負担(無料)の対象です。1歳のお誕生日を迎えたら、早めに接種しましょう。

平成23年度の第2期予防接種の対象者は、来年度に小学校入学を迎える幼児(平成17年4月2日～平成

18年4月1日生まれ)の皆さんです。平成24年3月31日を過ぎると、公費負担(無料)対象外となり、自己負担での接種となるので注意が必要です。

日本脳炎予防接種について

平成7年6月1日～平成19年4月1日生まれの方は、積極的勧奨の差し控えにより、日本脳炎の予防接種を受ける機会を逸していることがあるため、特例として4歳以上20歳未満の間に、4回の接種のうちの未接種分を平成23年5月20日から定期予防接種として接種できるようにになりました(ただし、4回目は9歳以上で接種)。なお、特例対象者以外の方については、これまでどおり、第1期(3歳から7歳未満)と第2期(9歳以上13歳未満)が定期接種の対象となります。

*詳しくは、健康支援課まで

お問い合わせください。

0973-32009